

---

# ホタルのニュースレター

日本ホタルの会 2013/1 第 58 号

---

連載

— ホタルと私⑫ —

## ホタルと私

日本ホタルの会理事 川村 善治

私が日本ホタルの会に入会したのは（故）佐々学先生からです。沖縄支所より、群馬の（財）日本蛇族学術研究所に戻っていたころです。佐々先生は富山国際大学の学長をしておられ、蛇研の理事もしておられました。先生は富山の高岡市の川にホタルを見学に行った時、ゲンジボタルが無数空を飛び回っているのを見て大感動され、全国の方々に呼びかけて平成4年（1992年）日本ホタルの会を結成されました。初代の会長は、京都大学動物行動学の（故）日高敏隆先生、理事長は（故）佐々学先生、他理事十数名から始めました。

私は平成2年（1990年）まで約13年間、沖縄南部に住んでいました。沖縄は亜熱帯ですので、冬は10℃以下には下がりません。夜の満点の星の光は美事なものです。毎年ですが、6月中旬ごろ梅雨が明けますと、住宅の庭の芝生で、周囲は観葉植物だらけです。夜になると芝生の中に小さな光が無数に広がって見えます。つかまえてみますと、5mmくらいのウジムシで、尻が光っているのが大変印象的でした。初めてでした。

私は、中学校時代、東京杉並区の自宅に住んでいました。このころより、小さな虫の鳴く声を聞くのが大好きです。8月ごろより庭の木立の茂みの中でリィリリリと20秒～40秒高い声で鳴きます。7～8mmくらいの鈴虫を小さくした虫で、大変素早しっこい可愛い虫です。クサヒバリということがわかりました。その外、同じ大きさにカネタタキもいました。

### ホタルと出会う

ホタルと初めての出会いは小学校の時である。杉並第6国民小学校の2～3年のころ、戦時中で（昭和17～18年）日本は優勢のころでした。軍国主義の時で先生は大変怖かった存在でした。小学校の仲間は多くいて、遊びはベーゴマ、メンコその他、自然林、田園、草原も沢山ありました。自宅から15分南へ歩いていくと、田んぼと雑木林が広がっています。善福寺川が田園の中心を流れています。

夏休みは仲間と田園（別名おさき田んぼと言います）の小川で遊ぶのがなによりです。僕達のホームグラウンドです。仲

の良い友達と（４～５人）毎日の様にバケツ、網をもって、獲物をとりに行きます。何時も夕方には帰りますが、この日は別でした。小川の水をせき止めて掻堀（カイボリ）をリレー式で水を汲みだします。次第に水がなくなるとエビガニ、小魚、ドジョウ、エビ、カニがあらわれ夢中になって手掴で取っているうちに、急にあたりが暗くなって来た。やめようと誰かが言った。どこからとなく辺りから青色の丸い光が無数にふわぁ～と空中に舞上がり飛び回っている。仲間も啞然と見てました。網で掴まえると目と羽があり、尻が光っていた。コメツキに似てるなぁ～。これが生まれて初めてホタルを見た時です。可哀相で放してやるとうれしそうに舞上がった。不思議な虫がいると仲間で話しながら獲物を分け、急いで自宅へ帰った。（平成になり、昔遊んだ田園のホームグラウンドは現在公団住宅と一般住宅で埋めつくされ、善福寺川はあったが、土手の幅が広がり、両側は鉄柵で囲まれ、川底は深く川幅も広い全体がコンクリートで透明の水が流れる川であった。昔遊んだ田園のホームグラウンドは昔の面影はまったくありません。）



（写真１）初めてホタルを見た田園は住宅に変わった  
善福寺もこの様になってしまった

戦争が激しくなり小学校５年生立秋（昭和 19 年）、学校は集団又は縁故疎開を行なう様になった。私は集団を望んでいたが、母の実家に秋ごろ縁故疎開をする事になった。埼玉県大里郡である。実家の離屋に家族全員が住む事になり、入学した小学校は家から 4 km もある。雨の日は跣足で通う。家の前は梅林、その前は田園地帯が広がり、小川と林が多い。6～7 月ごろの夜はカエルの合唱が始まり、稲の上空には無数のゲンジボタルが飛び回っている。２回目のホタル観賞である。水田は無農薬の為いろんな生物がいる。稲穂の香りは久し振りで田舎の空気は実に美味であった。やがて田舎にも空襲が烈しくなり、グラマン機が軍需工場を爆撃に来る。昭和 20 年、終戦を迎える。自宅は焼けなかった為、東京に引き上げる事になった。中学 1 年生になる。私の遊んだホームグラウンドは雑草が一面に生え、善福寺川だけが昔の面影と変わらず流れていた。

## ホタルとハブの恐怖

昭和 35 年（1960 年）東大伝研（現在、東京大学医科学研究所）に研究員として勤務していた。主にハブ咬症の治療血清の改良と開発の研究であった。36 年、上司 4 名と奄美大島にハブ咬症の疫学調査に出かける事になった。上司は何回か行っていたが、私は始めてである。当時は、東京から列車と船で奄美まで 4 日間かかった（現在、飛行機で 2～3 時間である）。奄美の名瀬宿舎に荷物を置き、保健所と大島支所を訪問。保健所ではハブ患者の名簿調べを行なう。別館に行くと各市町

村から集めたハブが金網のケージ数個に分けて沢山入っていた。私は初めてハブを見た。近よると数匹のハブが猛烈に攻撃してくる。金網にぶつかり黄色い色の毒がとびちる。メガネがないと危険である。部屋の角に人間の膝から切断した足がホルマリン標本になっておいてあった。それはハブ取り人のもので、ハブ毒が大量に入り重症になり筋肉が壊死を起こし、やむなく切断、命だけは助かった。それを見て私は肝をつぶし恐怖を感じた。

その後一行は県病院を訪問する。院長が案内すると、ベッドの上にハブ患者が10名入院していた。悪臭がひどく、四肢の咬症が多いので驚いた。保健所によると、1週間後に現在の天皇陛下の弟の義宮殿下が奄美にチョウチョを採取にくるという事で、採取現場でハブ捕獲を数回にわたって行なうとの事でした。その日私も同行した。私は衛生課長に同行。ジープで悪路の山道を1時間30分山越えすると、住用村東城という部落がある。ここはチョウの多いところでハブも又多い。ハブ取人4名は先に来っていた。公民館で区長と作戦をねった。6月中旬は梅雨も明け、田の米も実る。ネズミが集まるとハブも集まる。ネズミはハブの好物である。ハブは夜行性で、夜の暗闇の外出は大変危険である。「奄美大島は東洋のガラパゴス島と言われ希少動物が大変多い所です。特別天然記念物のアマミクロウサギ、ルリカケス、アカヒゲ、イシカワカエル、昆虫類、野生欄が有名です。海はコバルト色で美しく、台風とハブがいなければ東洋の楽園です」。

いよいよ出発。あたりは暗くなった。

私は長靴と軍手、ヘルメットで武装し電燈をもち、ハブ取名人奄美のターザン（故）南さんの後をついて行く。やがて田んぼの畦道に入る。恐る恐る後につく。ターザンはカンテナをもってすたすたと速く歩く。サンダルである。約30分位か、ハブだと言った。10m先の山際の畦道に白く光った棒の様な物がたっている。名人が言った。鎌首を立ててこちらを見ているぞ。すごく無気味に見える。周囲にはホタルが沢山飛んでいるが、見るどころではない。名人はすばやく捕獲棒で簡単に捕らえる。約1m80cmはあったか、銀ハブである。プロは凄いな。ハブを興奮しない様に袋に入れ、背なかの石油缶入れる。



（写真2）ガジュマルの枝に巻き付き獲物を待つハブ（奄美大島）

山際と稲の上のホタルが無数飛んでいるのが、やっと目に入る様になった。奄美でホタルを見るのも初めてである。キイロヒトスジボタル（キイロスジボタル、6～7mm）と後で教えてくれた。道路測

の草むらにも光っている。手で捕まえるのは大変危険である。捕獲後のハブは狂暴で興奮すると、くるって攻撃はとまらない。世界の3大毒蛇に匹敵する。雨上がりの夜のハブは腹板が濡れ一層光って美しいとハブ取人は言う。この夜は計10匹以上捕獲した。公民館に帰り、夜食の住用の湾でとれたボラのミソ汁を部落の人が作ってくれたが、超美味が全身にしみた。今もあの味が忘れられない。住用村はチョウチョの宝庫である。

### ホタルと鮎の友づり

毎年7月1日はアユの解禁日で、栃木県の思川の上流粕尾川での鮎つりを楽しみにしています。源流にはダムがありません。流れる川は透明でアユが舐める石の珪藻も豊かで、アユの成長も良いのが知られている。解禁日はいい場所を取る為に、午前1時に車で1時間30分位で現場につく。途中でおとりを購入し、川岸におとり船を結ぶ。1台の先着の自動車が来ていた。ゲンジボタルが多いところで楽しみである。土手の草むらに横たわりホタルを観賞する。見ていると光の情景にもリズムがあり名曲を思い出す。例えば、ドビッシーの月の光、ショパンの優雅なエチード作品25と死の最後のピアノ曲遺作などは、暗闇に飛び舞う幻想の光と解け合いなんとも言えない気持ちになる。



(写真3) 毎年のアユつり場であり、自然のホタルの発生地（栃木県鹿沼上粕尾川）

海には竜宮城がある様に、天国にも楽しい楽園がある。ホタルの神秘の光は、天国からの使者ではないか。やがて夜明けと共にホタルはどこともなく消えていった。さて、アユつりの仕度は終わって、白波の立つ瀬に一斉に竿を降ろす。向い側はつり人が沢山来ていた。オトリを付け水中にうまく泳がす。これもコツがいる。つれ具合はこれで決まる。当日は20cm前後のアユを約30匹ほどつった。生アユはスイカの香りがする。午後に帰宅し、夕食に初アユの塩焼を一口食べると、口の中までアユ独特の香りと美味が舌にしみ鼻にぬけ、全身に美味を感じるのだ。

( かわむら よしはる )

## 2011 年度 日本ホテルの会業務報告

日本ホテルの会の 2011 年度活動状況について、次のとおり、報告します。

### 1. 会の体制

#### (1) 会員数

2011 年度期首及び期末の会員数は次のとおりとなっています。

| 年 度      | 法人会員 | 公的会員 | 個人会員 | 計     |
|----------|------|------|------|-------|
| 2010 年度末 | 1    | 5    | 9 5  | 1 0 1 |
| 2011 年度末 | 1    | 5    | 8 6  | 9 2   |

法人会員、公的会員、個人会員ともに大きな変化はありませんが、個人会員の減少が続いています。

#### (2) 役員体制

2011 年度の役員は次のとおりです。役員任期は 2 年のため、役員の体制に変わりありません

名誉会長 矢島稔

会 長 本多和彦

副 会 長 鈴木浩文

理 事 小西正泰、川村善治、荻野昭、小俣軍平、常喜豊、井上久彌、井上務、古河義仁、渋谷桂子、宇田川弘康

会 計 井上久彌

監 査 井上務、後藤洋一

事 務 局

事務局長 井上久彌

井上務、古河義仁、渋谷桂子、宇田川弘康、後藤洋一、立田美枝子

事務局業務は、事務局に会長と副会長を加えた体制で進めています。

### 2. 財政及び運営

#### (1) 財政

日本ホテルの会は、会員の皆様の会費によって運営されています。2011 年度の会費収入は、348,000 円となっています。これに講師料等を加えた総収入は、413,027 円となってい

ます。一方、支出は、402,050 円となり、単年度収支で 10,977 円が残ることになり、次年度へ繰り越すことになりました。今期の繰越金は、1,235,746 円となっています。財政的には収入と支出のバランスが取れた結果になりましたが、収入、支出ともに規模縮小傾向にあり、こうした健全な運営状況を継続しつつも、会の活動の活性化を積極的に進めていかなければならないと考えています。また、ニュースレターの作成や各種イベントの実施、日常的な会議などに参加するスタッフの人件費、交通費等は、すべて役員各自の個人負担となっていることを考えますと、健全な運営と活性化のため、安定した収入の確保としっかりとした組織づくりにさらなる努力が必要と考えています。

## (2) 運営

当会の運営は、理事会及び事務局会議により行っています。

理事会      会の活動計画の決定、財政状況の確認、次期役員選考など重要課題への対応を審議しました。

2011 年 5 月 15 日      10 月 23 日

2012 年 1 月 22 日      3 月 4 日

計 4 回開催

事務局会議      理事会で決定した活動計画を実施するとともに、ニュースレターの内容や講師派遣依頼への対応の検討など、会の具体的な運営を協議、決定しました。

2011 年 7 月 9 日      8 月 13 日

計 2 回開催

## 3. 活動報告

主な活動として、ニュースレターの発行、ホームページによる情報発信、各種イベント開催、講師派遣を行っています。2011 年度は、3 月に発生した東日本大震災の影響により、観察会の実施を見送りました。また、談話会は、7 月に八王子市、府中市、東京ホテル会議との意見交換会を実施しました。2 回目の談話会は、3 月実施の予定でしたが、東京都町田市片所谷戸（かたそやと）のホシザクラ開花に合わせて実施したため、4 月の開催となりました。

### (1) ニュースレターの発行

ホテルのニュースレター第 53 号、第 54 号、第 55 号を発行しました。

### (2) ホームページによる情報発信

ホームページでは、当会の活動方針をはじめ、イベント案内など日本ホテルの会の情報を発信しています。

ホームページアクセス状況の推移は、次に示すとおりで、年々アクセスが増加してきましたが、2009 年から、アクセス件数の伸びがやや鈍化しています。しかし、年間 1 万件以上のアクセスがあり、引き続き重要な情報発信の場として今後も積極的に活用してまいり

ます。

#### ホームページアクセス数の推移

|                |              |
|----------------|--------------|
| 2004 年度末アクセス件数 | 累計 35,500 件  |
| 2005 年度末アクセス件数 | 累計 82,500 件  |
| 2006 年度末アクセス件数 | 累計 118,000 件 |
| 2007 年度末アクセス件数 | 累計 204,268 件 |
| 2008 年度末アクセス件数 | 累計 294,100 件 |
| 2009 年度末アクセス件数 | 累計 310,600 件 |
| 2010 年度末アクセス件数 | 累計 336,500 件 |
| 2011 年度末アクセス件数 | 累計 357,800 件 |

### (3) イベント活動

観察会 未実施

シンポジウム 2011 年 11 月 27 日

会 場 工学院大学新宿キャンパス

テーマ 第 18 回日本ホテルの会シンポジウム

ホテルを通じて身近な自然を考える

-里山の復元についての意味を考える-

談話会 2011 年 7 月 17 日

八王子市、府中市、東京ホテル会議から依頼のゲンジボタルDNA  
分析の報告会

※この談話会は、上記の関係団体と日本ホテルの会のみの参加で開催  
しました。一般の参加を求めないもので、講師派遣に近い形の開催  
になりましたが、日本ホテルの会が主体的に実施したもので、  
談話会としています。

### (4) 講師派遣

2011 年 7 月 24 日 洗足池図書館での講演

2011 年 8 月 20 日、21 日 工学院大学理科教室協力

2011 年 10 月 8 日 三重県三重郡川越町での講演

## 4. 2011 年度活動について

日本ホテルの会は、ホテルを里山の象徴と考え、ホテルの棲む豊かな環境を取り戻すという理念を発信するため、活動を続けています。

2011 年度は、東日本大震災の影響があったため、観察会を中止せざるを得ませんでした。日本中で多くのイベントが自粛され、被災地への思いもあって、実施が難しいと判断いたしました。

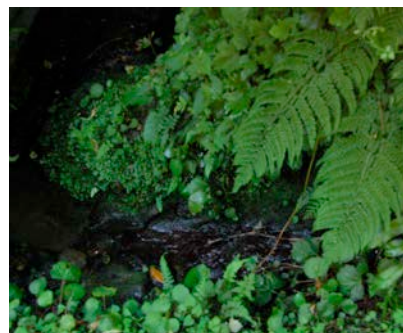
一方で前年度開催できなかった日本ホタルの会シンポジウムについて「里山の復元についての意味を考える」をテーマに掲げ開催しました。

談話会では、一般参加ではなく、テーマに関連する団体が意見交換をする新たな形の実施しました。一般に広くということも大切ですので、今後もこれまでと同様の談話会を実施する一方で、関係者が深く議論できる場も談話会の一つとして考えていきたいと思っています。また、同じく談話会では、実施が2012年度となったため、実績には記載していませんが、片所谷戸を訪ね、意見交換をするという現地探訪型の談話会を計画しました。談話会では、以前からコオロギ相撲や光の実験などを行ってきており、いろいろな形のことをこれからも検討、実施していきたいと考えています。

講師派遣につきましては引き続き問い合わせが数多く、好感触を得ています。ホームページやニュースレターなどのメディアで広く発信することは大切ですが、当会の理念を伝え環境再生を進めていくため、現場に出て直接話し、関わってゆくことは大変重要であると感じています。講師として依頼先への情報提供だけでなく、当会としても現地の方々との交流ができることや様々な環境を実際に見て得られる知見などメリットがあると感じています。さらに、これらの体験や事例についてニュースレターなどを通じて会員の方々に発信することができますので、引き続き講師派遣を重要事業と位置づけ推進していきたいと考えています。

## 講演報告

2012.6.17.



神奈川県横須賀市逸見行政センターより「逸見コミュニティーセンター講座“へみのほたるを見にいこう”」における講師派遣のご依頼があり、当会理事渋谷が観察会を行いました。当地区は住宅街に良好なホタル生息地が保全されている場所で、逸見地区町内連合会により天気・気温・個体数を記録した経年データを掲載した“蛍の里通信”が出されているなど、地域住民が一体となって良好な自然環境を守っている地域であります。

講座には、目をきらきらと輝かせた未就学児の親子をはじめ、蛍に興味のある地域住民が参加されていました。「ホタルについて学ぼう」という講演にて、子ども向けに世界のホタルや日本のホタルの生態、ホタル観察のポイントや留意点をお話させていただいた後に観察地に向かい、ゲンジボタルとクロマダボタルを観察しました。主な観察地点は2地点。

1地点は、行政が積極的に保全に取り組んでいる「浄水場裏にあるホタル保全地」。もう1地点は、東京から1時間の場所であることを忘れてしまうほど関東南部谷戸の源流部の霧

囲気を残し、湧き水を住民が汲みにきているような「ほたるの里」保護区でした。ゲンジボタル雄の集団同時明滅も見られ、観察者から静かな歓声が聞かれました。

東京から1時間、人が関与しながら守っている「保全」地区と、人の関与を最低限にしながら守る「保護」区のよい事例も同時に学ぶことのできる素晴らしい観察会となりました。お世話になりました逸見行政センターの皆様、有難うございました。



### 理事会等報告

2012年8月26日、シンポジウムの内容について、開催日、開催場所、テーマ、出演者等の検討を行い、概要を決定しました。また、当会役員の知見を高めるための研修会（横須賀市ソレイユの丘）の実施を検討しました。

ホタルのニュースレター（第58号）

2013年 1月25日発行



日本ホタルの会  
JAPAN FIREFLIES SOCIETY

編集 日本ホタルの会事務局

発行 本多 和彦

〒197-0011 東京都福生市福生487（日本ホタルの会事務局）

TEL&FAX：042-530-2111

e-mail：mail@nihon-hotaru.com

URL：http://www.nihon-hotaru.com

印刷 青森コロニー印刷 東京都中野区江原町2-6-2

TEL：03-5996-2761